

「まちもり」アクションNEWS #08



在来種？ それとも外来種？

「まちもり」植物ウォッチング

植物ウォッチング 夏の結果発表！

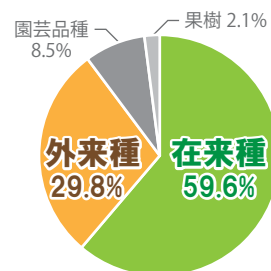
この夏、7箇所の事業所から合計64回の投稿を頂き、47種類の植物と13種類の昆虫を確認することができました！7月15日～9月22日の間、およそ1日1回の投稿があった計算になります。

撮影場所は事業所の緑地をはじめ、自宅の庭や近くの河辺、通勤路の道端など合計25地点になりました。みなさん身近な場所で観察されたようです。

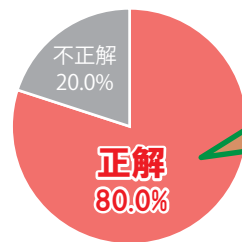
どっちが多い？ 在来種 vs 外来種

投稿頂いた植物47種類のうち、在来種は約6割(28種類)を占め、外来種の約3割(14種類)に比べて多くなりました。

生物多様性の取り組みにおいて何かと話題になる外来種ですが、みなさんの実感としては多いでしょうか？それとも少ないのでしょうか？



在来種と外来種の割合
N=47種類



在来 / 外来予想の正解率
N=45投稿(園芸品種・果樹を除く)

自分が撮影した植物が在来種か外来種かの予想をして投稿して頂きました。正解率なんと8割！みなさん図鑑やインターネットで調べて頂いたようで、とても高い正解率でした。



キカラスウリ (愛宕事業所)
事業所のフェンスを這って開花していました。よく似たカラスウリは夜開花して朝にはしぼみませんが、キカラスウリは日中まで咲き続けます。普段気にしていなかった場所にも、意識して探すと様々な植物が生育していることに気が付きます。



ハナミズキとキマダラカズムシの幼虫 (氷島C地区)
自宅の庭での撮影。ハナミズキという在来種のイメージがありますが、実は北アメリカ原産の外来種で、別名アメリカヤマボウシ。明治頃に日本に移入され、庭木や街路樹などに広く活用されています。なお、キマダラカズムシも外来種です。

各地の投稿写真から見えてくる植物のあれこれ

1. 観察地点の環境



ママコノシリヌグイ(在来種)とジュズダマ(外来種)が写っています。どちらも湿り気のある土壌を好む植物ですので、水路沿いや半日陰でじめじめした環境であることが予想されます。近くに水場があれば、イトトンボの仲間がこれらの植物を採餌場所や隠れ場所として利用しているかも…といったことも予想されます。

2. 動物との相互関係



子どものころに葉や実を揉んでその匂いを嗅いだ方も多いたのではないのでしょうか？その悪臭から付けられた名前は「屁(へ)糞(くそ)葛(かすら)」。少し気の毒な名前ですが、ヒヨドリやジョウビタキなどの鳥はこの実を食べます。タネごと飲み込んで別の場所に飛んでいき、糞とともにタネを排出するのです。この写真のヘクソカズラも、きっとどこからか鳥に運んでもらったタネが発芽したものでしょう。

3. 外来/園芸種の野生化



タカサゴユリは台湾原産の外来種です。一方、シンテッポウユリは九州南部から沖縄に生育する在来種テッポウユリとタカサゴユリとが交雑してできた園芸品種です。どちらも夏に大きな花を咲かせ私たちを楽しませてくれます。しかし、近年これらが野生化して自然の中で目にする機会が増えていきます。ユリは球根が分かれて増えるため、一度根付くと増える傾向にあります。また、テッポウユリとの交雑による影響も懸念されます。

スマホでパチリ☆



植物ウォッチング 秋の投稿 大募集！

秋の投稿期間：9月23日～11月15日

各事業所から投稿ください！

夏には7箇所の事業所から投稿頂きました。より広く地域の特性を把握するため、より多くの地域のみなさんご協力を必要としています。特に、まだ投稿のない事業所からの投稿をお待ちしています。そして、夏に投稿して頂いた事業所のみなさんも、引き続き秋の投稿をお願いします！

- 夏に投稿のあった事業所
- まだ投稿のない事業所



「まちもり」地域区分
気候や植物分布により地域を区分・色分けしています。

植物ウォッチングで多様性を実感！

「まちもり」アクションでは、植生学的知見に基づいて日本列島を地域区分しています。これは南北に長い日本では、地域により生育する植物の種類や遺伝子が異なることを考慮して環境保全活動を行うためです。

旭化成グループの事業所は、九州から関東にかけて点在します。そのため、各地域から身近な植物を投稿して頂くことで植物の種類や分布、花や実の時期などの違いを見つけ、その多様性を実感することができるのです。

「まちもり」アクションNEWS #09

投稿結果発表！！

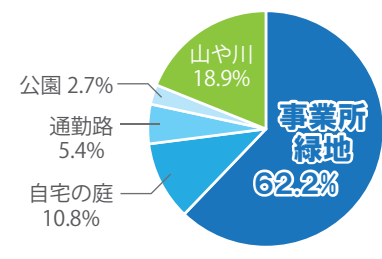
在来種？ それとも外来種？ 「まちもり」植物ウォッチング



掲載した植物の写真は全て「まちもり」植物ウォッチングに投稿された写真です。

地域の緑、どこで観察？

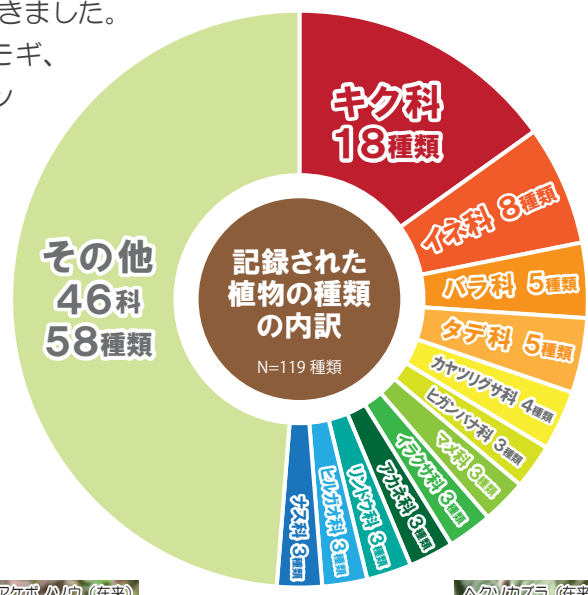
全国の事業所で植物を観察する取り組み「まちもり」植物ウォッチングにより、合計167回のたくさんの観察記録を投稿いただきました。観察場所を集計すると、事業所の緑地やその周辺、自宅の庭、公園、通勤路といった身近な緑から、地域の山や川などの自然豊かな場所まで合計37地点で観察されていました。特に多かったのは事業所の緑地。「普段気に留めない緑を改めて観察すると、色々な発見があって面白かった」「こんなに種類があることにおどろいた」といった感想をいただきました。



観察場所の割合 N=37 地点

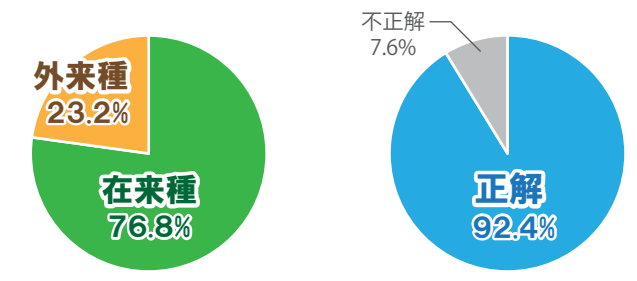
よく観察されたのはどんな植物？

今回の植物ウォッチングでは、種類を特定できた140回の観察記録から、合計58科98属119種類の植物をリストアップすることができました。最も多かったのはキクの仲間で、ヨモギ、アメリカセンダングサ、ヒメジョオンなど18種類が記録されました。他にイネやバラ、タデの仲間が多くなりましたが、特筆すべきは「その他」として46科58種類の植物です。分類学上、異なる仲間の植物がたくさん記録されたということは、それだけ多様な植物が生育しているということです。身近な緑でも生物の多様さを十分に体感することができる結果といえるでしょう。



どっちが多い？ 在来種 vs 外来種

119種類の植物のうち在来種は86種類で、外来種26種類に比べて高い割合を占めました。生物多様性に関する取り組みということで、みなさん在来種を選んで投稿された可能性はありますが、身近な緑にもたくさんの在来種が含まれていることがわかります。このように身近な緑に目を向け、在来種を大切にすることは地域の生態系を守ることに繋がっていくのです。今回、投稿の際に自分が撮影した植物が在来種か外来種かを予想してもらいました。正解率はなんと9割超！みなさん図鑑やWebで調べられたようで、とても高い正解率でした。様々な植物の名前を全て調べるのは大変ですが、身近な植物の数種類だけでも見分けられると、今まで気にも留めなかった緑が全く違って見えてくる…かもしれません。興味のある方は、ぜひ植物の観察や記録について、引き続きチャレンジしてみてください！



在来種と外来種の割合 (N=112種類 園芸種または果樹の7種を除く)
 在来 / 外来予想の正解率 (N=132投稿 園芸種または果樹の8投稿を除く)



投稿写真の種類判定をお願いした植物専門家の西川博章先生 (日本ビオトープ協会理事)

「まちもり」植物ウォッチングはいかがでしたか？身近な緑にも不思議な発見や出会いがあふれています。色々な種類の植物が、多様な環境で棲み分けていることに気づいた人もいたことでしょう。花や果実などを細かく観察して識別された種名と生育環境の記録は、学術的にも価値のあるものです。こうした取り組みを企業として全社的に行うことは、企業内の環境意識の向上だけでなく、地域の自然環境の基礎情報を記録することにもなり、たいへんユニークで優れた活動であると評価できます。

人の暮らしにも影響する外来種

自然環境問題の一つとして取り上げられることの多い外来種。植物ウォッチングで記録された種類数の割合は高くありませんでしたが、身近な緑でもハナミズキやセイヨウタンポポ、ランタナなどの名前をよく耳にします。これらの外来種、何が問題なのでしょう？生態系への影響と同時に、実は人間活動への影響も懸念されています。

もちろん外来種の全てが悪影響を及ぼす訳ではありませんが、人の都合による安易な植栽や他の場所へのタネの持ち運びなどは慎まなくてはなりません。

私たち一人ひとりが正しい知識と関心をもつことが、人も生き物も心地よく暮らせる「地域の緑」を育む第一歩です。



外来植物によって懸念される主な影響

- ① 生態系への影響
 - 在来植物の生育場所との競合
 - 在来植物との交雑による遺伝子攪乱
 - 在来動植物の相互関係の攪乱
 - 土壌の栄養循環の改変
- ② 人間活動への影響
 - 単一植生の広がりによる治水力や利水力の低下
 - 水草の繁茂などによる農業や漁業への悪影響
 - 花粉症の誘発